様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　5 月　22 日現在

機関番号：33932
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2008～2011
課題番号：20401050
研究課題名（和文）　アジア太平洋地域おける感染症対策についての医療人類学的研究

研究課題名（英文）　Medical anthropological research on infectious disease in the Asia Pacific region

研究代表者　成田弘成（NARITA HIRONARI）
桜花学園大学・学芸学部・教授
研究者番号：40189212

研究成果の概要（和文）：本研究は、アジア太平洋地域における 4 年間にわたる医療人類学的フィールド調査から、アジア新興国（中国・インド）の台頭による社会的変化の中で、中進国（タイ）を中心とする同地域内の医療協力「南南協力」の必要性と可能性を確認し、後発開発途上国（パプアニューギニア・ラオス）の今後の問題点を検証した。

研究成果の概要（英文）：This study with medical anthropological fieldworks carried out in the Asia Pacific area for four years suggests that, while the rapid social change brought by emerging countries such as China and India is spread throughout all areas of the Asia Pacific, the medical (South-South) cooperation initiative taken by Thailand as a semi-developed country will be potential especially in the least developed countries such as Laos and Papua New Guinea which face difficulties to continue in the future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	3,000,000 円	900,000 円	3,900,000 円
２００９年度	2,900,000 円	870,000 円	3,770,000 円
２０１０年度	2,900,000 円	870,000 円	3,770,000 円
２０１１年度	2,600,000 円	780,000 円	3,380,000 円
年度			
総　計	11,400,000 円	3,420,000 円	14,820,000 円

研究分野：　文化人類学
科研費の分科・細目：　文化人類学・文化人類学・民俗学
キーワード：　医療人類学、ＨＩＶ／ＡＩＤＳ、デング熱、アジア新興国、ミレニアム開発目標、感染症対策、南南協力

１．研究開始当初の背景

（1）ミレニアム開発目標（MDGs）においても HIV/AIDS 等の感染症対策が重視されており、発展途上国への援助にもその具体的な方策が必要とされていた。

（2）加えて、サーズ（SARS）や鳥インフルエンザ等のパンデミックな感染症の出現に対して、医療における国際協力の模索も必要とされていた。

（3）中国やインドがアジア新興国として経済的に台頭する中、その社会的影響をアジア太平洋地域全体の中で正確に理解することが必要とされていた。

２．研究の目的

（1）様々な経済および文化が混在するアジア太平洋地域において、感染症対策の為の効率的なアプローチを探求する。

（2）国際開発協力という国単位の連携も念頭にセキュリティ（安全保障）を考慮しつつ、地域別のローカルな医療文化も重視し、医療援助の為の地域モデルと包括モデルの在り方を探求する。

（3）アジア新興国における感染症とその医療対策を明確化し、今後の課題をアジア太平洋地域全体の中で正確に位置づけることを行う。

３．研究の方法

（1）医療と人類学の学際的な視点を重視し、現場においては医療実務の立場と、ローカルな文化の立場を尊重し、多元的で連携を重視したアプローチを実施した。

（2）アジア太平洋地域は多様な社会である為、後発開発途上国（パプアニューギニア・ラオス）、新興国（中国・インド）、中進国（タイ）の３つに区分けし、その問題点の相違に着目しながら、感染症を中心に、フィールドワークを実施した。

（3）資料収集（含文献）においては、産官学の区別を重視しながら、地域別のアプローチの違いを明確化出来るようにした。開発援助研究の場合、特に ODA を中心とする国際援助機関のアプローチを、NGO を主体とする地域コミュニティ基盤型のアプローチから区別する手法を取った。

４．研究成果

（1）研究対象地域のフィールドワークにより、地域モデル別の医療問題を確認した。後発開発途上国のパプアニューギニア・ラオスでは、基本的な医療インフラの不足や海外援助の連携の必要性が確認され、新興国の中国・インドでは、急激な都市化に伴う問題と域内格差の問題が問題視される一方、中進国のタイでは海外との医療協力体制作りの戦略的在り方が必要とされる、等を確認した。

（2）多様な問題を抱えるアジア太平洋地域ではあるが、「南南協力」を核とする医療の包括的協力関係の構築の可能性を示唆し得た。中進国タイには熱帯医学の成果（蚊の動態研究を基にしたデング熱対策）もあり、今後アセアン地域のみならず太平洋地域、特に後発開発途上国を中心に、その医療協力による効果があると期待できる。

　この「南南協力」については JICA（国際協力機構）も最近有益な援助協力として認識を新たにしている。

（3）近年の感染症のグローバル化については、同地域における急激な都市化とインフラ投資による交通網（東西回廊を代表とする高速道路）の整備も関係している。こうした社会変化および社会移動は、医療におけるセキュリティ（安全保障）を提言する必要性を与えている。特にアジア新興国では、こうした問題が顕著に現われ、政策課題として取り上げ始められている。

（4）ローカルな医療文化については、新興国の中国とインド共に、大きな変化の渦中にあるものの、伝統医療としての役割は大変大きく、例えば「南南協力」においても十分に補完的な役割を担うものと位置づけられる。

　伝統医学の役割の重要性は、またそれ以上に新薬の開発においも近代医療への貢献の可能性も高いが、気候変動と感染症の関連性をも追求する視点を提供している。

（5）後発開発途上国にはまだ十分な医療援助が達成できていない理由として、NGO よりも ODA 優先の体制が問題視される。しかし、既にアジア新興国では医療 NGO の活動は活発化しており、中進国も参加する「南南協力」の発展は、後発開発途上国についても大きな可能性を持つものと言える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 徐文波・成田弘成、中国伝統医学からみた感染症へのアプローチ、桜花学園大学人文学部研究紀要、査読有、第 13 号、2011、87-96 頁、
http://www.ohkagakuen-u.ac.jp/tosho/kenkyukiyo/n13/08naritahoka.pdf

② Raweewan Srisawat・Narumon Komalamisra・Theerawit Phanphoowong・高崎智彦・Lucky Ronald Runtuwene・倉根一郎・成田弘成・江下優樹、Present status of the incecticide susceptibility of *Aedes* mosquitoes in Thailand、日本赤十字豊田看護大学紀要、査読有、第 6 巻、第 1 号、2011、31-37 頁、
http://ci.nii.ac.jp/els/110008439809.pdf

③ Yuki Eshita, Junko Higashihara, Masayasu Onishi, Masaaki Mizuno, Jun Yoshida, Tomohiko Takasaki, Hidekatsu Yoshioka, Naoji Kubota and Yasuhiko Onishi, Mechanism of the introduction of exogenous genes into cultured cells using DEAE-Dextran-MMA graft

copolymer as a non-viral gene carrier. II. Its thixotropy property. Journal of Nanomedicine and Nanotechnology, 査読有、2011、2:105, doi:10.4172/2157-7439.1000105

④ Yusuke Sayama, Yuki Eshita, Takuya Yamao, Miho Nishimura, Tomomitsu Satho, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Yupha Rongsriyam, Kouji Sakai, Shuetsu Fukushi, Masayuki Saijo, Hitoshi Oshitani, Ichiro Kurane, Shigeru Morikawa and Tetsuya Mizutani, Prevalence of Phasi Charoen virus in female mosquitoes. Journal of Parasitology and Vector Biology, 査読有、2011,3(1), 19-21 頁, http://www.academicjournals.org/jpvb/PDF/Pdf%202011/Jan/Sayama%20et%20al.pdf

⑤ Ryo Murata, Yuki Eshita, Akihiko Maeda, Junko Maeda, Saki Akita, Tomohisa Tanaka, Kentaro Yoshii, Hiroaki Kariwa, Takashi Umemura, and Ikuo Takashima、Glycosylation of the West Nile Virus envelope protein increases in vivo and in vitro viral multiplication in birds. Amer. J. Trop. Med. Hyg.、査読有、82 巻、4 号、2010、696-704 頁, http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2844573/

〔学会発表〕(計 5 件)

① 江下優樹, 高崎智彦, 林 昌宏, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Yupha Rongsriyam, 湯 偉峰, 青野裕士, 牧野芳大, 成田弘成, 牛島廣治, 倉根一郎、タイ国産ネッタイシマカのチクングニアウイルス感受性。第 62 回日本衛生動物学会大会、2010 年 4 月 3 日(土)・4(日)、鹿児島大学郡元キャンパス、 鹿児島県鹿児島市。

② Yuki Eshita, Josef Sem Berth Tuda, Lucky Ronald Runtuwene, Prima Pratama, Toshiaki Katayama, Shuichi Kawashima, Kazushi Hiranuka, Tomohiko Takasaki, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Hironari Narita, Hiroshi Ushijima, Hiroshi Aono, Yoshihiro Makino, Miho Imada, Chihiro Sugimoto, Ryuichiro Maeda, Yutaka Suzuki, Sumio Sugano, Junichi Watanabe , Biological and ecological aspects of chikungunya and malaria vector mosquitoes in Southeast Asia. Parasite pathogen genomics: Prospect for tropical disease control. International scientific meeting in line with the 51st anniversary of Faculty of Medicine Sam Ratulangi University (The Watanabe Memorial Symposium), Manado, Indonesia, 27 May 2010.

③ Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Chamnarn Apiwathnasorn, Yupha Rongsriyam, Yuki Eshita, Evidence of mutations in sodium channel domain IIS6 in field-collected permethrin-resistant *Aedes aegypti*. The Fourth ASEAN Congress of Tropical Medicine and Parasitology, SINGAPORE, 2-4 JUNE 2010.

④ 江下優樹, Lucky R. Runtuwene, 高崎智彦, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Yupha Rongsriyam, Bouasy Hongvanthong, Boualy Kheokhamphavanh, Bounpone Sidavong, Kham Thong, Silivanh Chanthalavong, Khambang Silavong, Kalounna Keokenechanh, Hongkham Keomanila, 牧野芳大, 成田弘成, 牛島廣治, Arthur E. Mongan, 前田龍一郎, 森田公一, 杉本千尋, 倉根一郎、RT-LAMP 法を用いた蚊からのデングウイルスゲノムの迅速検出。 第 63 回日本衛生動物学会大会、2011 年 4 月 14 日(木)・16(土)、国立感染症研究所、一橋記念講堂 東京都。Med. Entomol. Zool., 62 (大会特集号) :75, 2011.

⑤ 江下優樹, Lucky R. Runtuwene, 高崎智彦, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Yupha Rongsriyam, Bouasy Hongvanthong, 牧野芳大, 成田弘成, 牛島廣治, Arthur E. Mongan, 今田美穂子, 前田龍一郎, 森田公一, 杉本千尋, 倉根一郎、RT-LAMP 法を用いた蚊からのアルボウイルスゲノムの迅速検出。 第 64 回日本衛生動物学会大会、2012 年 3 月 30 日(金)・31(土)、信州大学、長野県上田市。Med. Entomol. Zool., 63 (大会特集号) :64, 2012

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者　成田弘成(NARITA HIRONARI)
　桜花学園大学・学芸学部・教授
　研究者番号：　40189212

(2)研究分担者　江下優樹 (ESHITA YUKI)
　大分大学・医学部・准教授
　研究者番号：　10082223

(3)連携研究者
　　　　　　　(　　)

　研究者番号：